社会科（地図）調査資料１－１

書名 項目		新編　新しい社会　地図　　2　東　書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○基本図、テーマに沿った部分図と資料、グラフや統計など多様な資料を掲載し、広い視野から世界と日本の国土、また地域の結び付き等の地域的特色を考察し、理解させるようになっている。 ○各州・地域ごとのテーマに沿って資料図を掲載するとともに「ジャンプ」によって関連する資料の場所を示し、様々な資料により多角的に考察させるようになっている。 ○地域ごとに特色あるテーマをあげて、歴史的背景、他地域との関連、自然条件等を学ばせて地域的特色や課題をとらえられるようになっている。
特色	内　　容	**＜基礎的･基本的な知識･技能を習得する工夫＞** ○巻頭に「この地図帳の活用方法」を設け、地図帳の読み方、学び方が習得できるようになっている。 ○州ごとに「基本資料」のページを構成し、基礎的・基本的な知識と地図帳の活用技能の習得を図るようにしている。 ○「世界全体」と「日本全体」をまとめて配置し、地図帳活用の技能を習得するようにしている。 **＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞** ○基本図の項目部分に「注目したい記号」を設けている。この記号に注目することにより、その地域の地理的特色をとらえる視点や工夫が身に付くようにしている。 ○資料の地図に「ジャンプ」という説明が設けられている。関連した内容の地図がどこにあるのか書かれており、関連づけて考える手助けとなっている。 **＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞** ○テーマに沿った部分図は、各地域の特色をまとめるレポート等を作成する場合に、生徒が主体的に進められる構成になっている。 ○日本の基本図では、全体図の次に各地域の人口が多い地域を拡大して掲載し、地域の地理的な特色に着目しやすい。 **＜地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫＞** ○各州・地方ごとにテーマ資料のページを設け、教科書を補完する資料を掲載し、各地域の地理的特色、学習テーマに基づいて追究するように構成されている。 ○関連する資料がほかのページにもある場合、「ジャンプ」マークを記載し、そのページを参照することにより、同じテーマについて、他の州・地方と比較し考察できるようになっている。 **＜我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫＞** ○巻末のページに、北方領土・竹島・尖閣諸島を写真付きで取り上げており、日本固有の領土であることを明記している。 ○環境問題や災害、エネルギー問題を特集したページを設けたり、各国の生活や文化、宗教など国際理解に関わる資料図を掲載したりして、地理的認識や今日的な課題の考察を深める工夫がなされている。 ○写真やグラフなどの資料が豊富で、様々な事象を具体的にイメージしやすい。
	資　　料	○世界の一般図では，地名が読みとりやすく，土地の高さを色の濃淡でわかりやすく示した「等高段彩表現」が用いられている。 ○日本の一般図では，「等高段彩表現に土地利用表現を加えた地図表現」を用いられており、日本の諸地域のようす・特色がよりよくとらえられる。
	表記・表現	○「国名」や「首都名」，「都道府県名」や「都道府県庁所在地」など，学習上とくに重要な地名は大きく太く記載し，他の地名よりも目立つように配慮されている。 ○日本の一般図などに記載した「都道府県名」「市町村名」「自然地域名称」などには，誤読を防ぐために，全てふりがなが付してある。 ○学習上とくに重要な「国名」「首都名」には欧文を併記して，国際化に対応している。
総　　括		○西アジア、環地中海の一般図、江戸時代の大阪の詳細図、環境問題や国際協力等の資料を掲載し、歴史・公民的分野との関連付けを図っている。 ○地図中の赤色の文字を白色で縁取りしたり、ふりがなをゴシック体としたりする等の工夫をし、色覚の特性をもつ生徒を含めすべての生徒が判別して読めるように工夫している。 ○主体的に社会に参画する意識や態度を養えるように、具体的に社会参加をしている人の姿や防災・安全といったこれからの日本について考える資料を掲載している。

社会科（地図）調査資料１－２

書名／項目		中学校社会科地図　４６　帝国
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○基本図、テーマ別資料図、鳥瞰図で自然・産業・生活・文化の視点で構成した多様な資料を用い、広い視野から日本と世界の地域的な特色を考察させ理解させるようになっている。 ○テーマ別に資料図やグラフなどをまとめた「ながめてみよう」では「地図をみる目」を設定して地理的な見方や考え方の基礎を養うようにしている。 ○地域ごとの特色を示す資料図を取り上げることで、環境条件や他の地域とつながりから地域的特色や地域の課題をとらえられるようになっている。
特色	内容	**＜基礎的･基本的な知識･技能を習得する工夫＞** ○巻頭の「この地図帳の使い方」「地域の特色をとらえるポイント」で読図の視点や地理的特色の追求の仕方を示し、技能を身に付けるようになっている。 ○４００万分の１で日本列島を概観できる基本図を見開きで掲載し、近隣諸国との位置関係、領土・領域と交通機関による結びつきなどを捉えることが出来るようになっている。 ○地理的分野の基本的な図で使用頻度の高い世界の国々を活用しやすい巻頭にまとめている。また、自然（地形や気候）の資料図も巻頭にまとめている。 **＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞** ○基本図に「やってみよう」という課題が設定されている。この課題に取り組むことで、その地域の特色を考察し、理解できるようになっている。 ○基本図に「地図を見る目」というコーナーが設けられている。地図を見るポイントが記載されており、思考力が高められる工夫がされている。 **＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞** ○「地域の特色をとらえるポイント」を設けて考察手順を示すとともに、「国土地理院の地形図を読み取ろう」で作業手順を示し、主体的に学習が進められるようにしている。 ○日本の基本図では、全体図の次に各地域の人口が多い地域を拡大して掲載し、地域の地理的特色に着目できるようにしている。 **＜地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫＞** ○各州・地方ごとにそれらを大観する資料図、様々な視点の資料を一続きにまとめ、各地域の地理的特色を、大観的かつ多角的に追究するように構成されている。 ○世界各州の資料中に「日本との結びつき」の資料を掲載し、経済面を中心に世界の諸地域を日本との結び付きからとらえられるようになっている。 **＜我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫＞** ○日本の基本図のページに、北方領土・竹島・尖閣諸島を写真付きで取り上げており、日本固有の領土であることを明記している。 ○環境問題や災害問題を特集したページを設けたり、各州・地方ごとに環境問題や防災・災害に係る資料図を掲載したりして、地理的認識や今日的な課題の考察を深める工夫がなされている。 ○写真やグラフなどの資料が豊富で、様々な事象を具体的にイメージしやすい。
	資料	○世界の一般図では，地名が読みとりやすく，土地の高さを色の濃淡でわかりやすく示した「等高段彩表現」が用いられている。 ○日本の一般図では，「等高段彩表現に土地利用表現を加えた地図表現」を用いられており、日本の諸地域のようす・特色がよりよくとらえられる。
	表記・表現	○特殊な用紙や特殊なインクが使用され、地図・写真が美しく鮮明に表現されている。 ○「国名」や「首都名」，「都道府県名」や「都道府県庁所在地」など，学習上とくに重要な地名は大きく太く記載し，他の地名よりも目立つように配慮されている。 ○日本の一般図などに記載した「都道府県名」「市町村名」「自然地域名称」などには，誤読を防ぐために，全てふりがなが付してある。 ○学習上とくに重要な「国名」「首都名」には欧文を併記して，国際化に対応している。
総括		○江戸時代の東京などの地図や鳥瞰図「本州中央部」に五街道とその全宿場を掲載したり、国際機関への参加国を示したりして、歴史・公民的分野との関連付けを図っている。 ○地図中の赤色の文字を黒色で縁取りしたり、小さい文字を白色で縁取りしたりして、色覚に特性をもつ生徒を含めすべての生徒が判別して読めるよう工夫している。 ○社会参画への意識や態度を養えるよう学習課題「やってみよう」を設け、生徒自らが社会的諸課題について考えたり、話し合ったりできるような工夫をしている。